

## 皮膚科学の進歩に寄与する研究報告書

### 洗顔料を使った洗顔と異常角化現象・炎症性皮膚疾患の関係

異常角化現象の際、洗顔料を使った洗顔は、古い角質や余分な皮脂、汚れを取り除き、毛穴の詰まりを防ぎ、皮膚のターンオーバーを正常に保つ助けになります。ただし、過度な洗顔や不適切な洗顔料の使用は、皮膚バリアを損傷し、異常角化現象を悪化させることがあります。

炎症性皮膚疾患の際、洗顔料を使った洗顔は、古い角質や余分な皮脂、汚れを取り除く一方で、正常な角質や脂質まで溶出させ皮膚バリアを壊し、炎症性皮膚疾患を悪化させることがあります。

適切な洗顔方法と製品選びの前に、洗顔料を使った洗顔と異常角化現象、炎症性皮膚疾患の関係を理解することが重要です。

異常角化現象では、皮膚バリアが壊れ、恒常性が発動してターンオーバーが早くなり、皮膚の角質層が異常に厚くなるのが特徴です。恒常性の発動以外にも、乾燥、摩擦、炎症、感染、遺伝的要因、ホルモンの変化などが原因で、ターンオーバーが早くなり、角化細胞が通常よりも早く成長し、未熟な角質細胞が過剰に産生されます。これにより角質は肥厚しますが、バリア機能のある角質層の形成が薄くなり、皮膚のバリア機能が低下し、かゆみ、ひび割れ、赤みや炎症、皮膚が硬くなる、キメが粗くなる、透明感がないなどの症状が現れます。尋常性乾癬や魚鱗癬や掌蹠角化症や毛孔性苔癬などが異常角化現象に含まれます。

一方、炎症性皮膚疾患では、皮膚バリアが壊れ、恒常性が発動してターンオーバーが早くなり、皮膚の角質層が異常に薄くなり、異物が侵入して免疫反応が起き、炎症を引き起こすのが特徴です。ターンオーバーが異常に早くなると、角化細胞が通常よりも早く成長し、核を持った未熟な角質細胞が角質層に出現し、バリア機能のある角質層の形成が薄くなります。これにより、角質層のバリア機能が低下し、皮膚が赤くなったり、かゆくなったり、腫れたりする症状が現れます。湿疹や皮膚炎などが炎症性皮膚疾患に含まれます。

このように、異常角化現象は角質層が厚くなるのに対し、炎症性皮膚疾患は角質層が薄くなるという違いがあります。どちらもバリア力のある皮膚バリアは薄いです。また、異常角化現象は主に物理的な要因や遺伝的要因が関与するのに対し、炎症性皮膚疾患は免疫反応が関与します。